

9月 ほけんだより

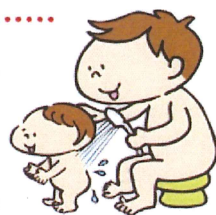


とびひの増える季節です

とびひは、夏の疲れが出る8月の終わりから9月ごろに多くなります。虫刺されの跡や傷に、菌が付いて発症することが多いようです。「傷がじゅくじゅくしている」「なかなか傷が治らない」というのがとびひの始まりのサイン。やがてかゆみの強い水ぼうがができます。これをかきこわした手でほかの所をかくと、そこにもとびひが広がります。

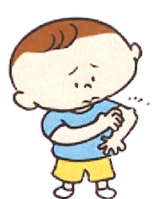
家庭での手当て

- じゅくじゅくした部分はガーゼで覆う。皮膚科で処方された薬があれば塗ってから、ガーゼで覆う
- お風呂では湯船につからず、シャワーで洗い流して清潔を保つ
- 湯上がりはこすらずふき取り、薬を塗る

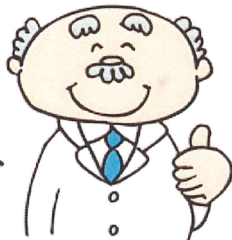


主な症状

- 皮膚に小指のつめくらの水ぼうがができる
- 水ぶくれや、赤くじゅくじゅくした、ただれた状態になる
- 強いかゆみがある



患部が乾燥すれば、うつる心配はありません。じゅくじゅくしていたら、ガーゼで覆いましょう



先月からとびひのお子さんが増えています。下記の点よろしくお願ひします。

- 治療を受けていない方は早めに皮膚科を受診するようにしてください。とびひの疑いがみられる方はこちらから声をかけさせていただきます。
- 水あそび・シャワーはできません。
- 創部が広範囲等で保育に支障があるとこちらで判断した場合、早い症状回復のために自宅療養をお願いする場合があります。基本的に薬の預かりとガーゼ類の張りかえは行いませんので、自宅から貼ってきたガーゼや絆創膏がとれないようにしっかり貼ってきてください。

●● 8月の感染症(健康状況) ●●

～季節の変わり目は
体調管理に
気をつけましょう～

- 溶連菌感染症 … 2名
- RSウイルス感染症 … 2名
- 突発性発疹 … 1名
- とびひ(疑いも含む) … 13名
- 水いぼ … 4名
- 下痢 … 10数名
- ★ 発熱のお子さんが 30 数名見られました。



例年、夏が終わり、朝晩が涼しくなり始めると、体調を崩すお友達が増えてきます。季節の変わり目は気管支の弱い子やアレルギー体質の子にはちょっと大変な時期でもあります。運動会や遠足に、みんなで元気に参加できるよう、ちょっとした体調の変化に気をつけていきましょう。体調変化がみられる時は早めに受診することをおすすめします。

防災の日(9月1日) 救急の日(9月9日)

9月1日は防災の日、9月9日は救急の日です。もしもの時に備え、非常食や水、ラジオ、懐中電灯などを用意しておきましょう。

また、お子さまにも火事や地震が起こったらどのように行動すべきか、煙を吸わずに逃げる方法や地震の時は机の下に隠れるなど、日頃から繰り返し話し、緊急時に備えるようにしましょう。「防災の日」をきっかけに保存食の賞味期限切れがないかなど、中身をチェックしておきましょう。

おうちの中にも事故やけがを招く危険な物がたくさんあります。事故を防ぐために、確認をしてみましょう。

- 子どもの手の届く場所に置いてはいけない物
(薬、洗剤、たばこ、ライター、ポット、炊飯器、包丁などの刃物、針、子どもが飲み込める大きさの細かい物など)
- 踏み台になる物はベランダに置かない
- コンセントなどをいたずらできないようにする
- 遊び食べに注意する(食べ物が喉に詰まることがある)
- 浴室には子ども1人で勝手に入れないよう工夫する

救急用品を点検しましょう!

この機会にご家庭の救急用品をチェックしてみましょう。古い物は処分し、新しいものを補充しましょう。



*いざというときに慌てないように、救急箱は取り出しやすいところに保管しましょう。